黒星病特別防除　りんご

ふじ	発芽	展葉	開花始	満開	落花	収穫盛
	3.30	4.9	4.28	5.2	5.8	11.21

平年値（東根市神町）北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度（薬液100ℓ当たり）		農薬使用基準 収穫前使用時期	農薬使用基準 総使用回数	10a当たり散布量	注意事項（収穫前日数　総使用回数）を表す	散布日（月／日）	使用薬剤	使用濃度
休眠期	腐らん病 黒星病 ハダニ類 カイガラムシ類幼虫	水 1．トップジンM水和剤 2．ベルクート水和剤 3．ハーベストオイル 4．アプロードフロアブル	98ℓ 1,000倍(100g) 2,000倍(50g) 50倍(2ℓ) 1,000倍(100cc)	前日まで 前日まで 芽出し直前直後 30日前	6回以内 6回以内 － 2回以内	400ℓ		／		
発芽10日後 展葉期（頂芽の葉が2～3枚展葉した頃）	黒星病 モニリア病 （褐斑病、炭そ病、斑点落葉病）	1．ストライド顆粒水和剤	1,500倍(66.6g)	開花前まで	2回以内	400ℓ	1．休眠期防除を行えなかった園地ではアプロードフロアブル1,000倍（30日前まで、2回以内）を混用散布する。	／		
展葉10日後 （4月中旬～下旬）	黒星病、褐斑病 炭そ病（輪紋病） 斑点落葉病 モニリア病	1．ジマンダイセン水和剤	600倍(166.6g)	30日前まで	3回以内	400ℓ		／		
開花直前	黒星病 うどんこ病 ハマキムシ類 キンモンホソガ	1．カナメフロアブル 2．デランフロアブル 3．サムコルフロアブル10	4,000倍(25cc) 2,000倍(50cc) 5,000倍(20cc)	前日まで 60日前まで 前日まで	3回以内 3回以内 3回以内	400ℓ		／		
前回散布後 10日以内	黒星病 斑点落葉病 モニリア病 褐斑病、赤星病	1．ミギワ20フロアブル 2．ジマンダイセン水和剤 3．（バイカルティ）※2	4,000倍(25cc) 600倍(166.6g) 1,000倍(100g)	前日まで 30日前まで －	3回以内 3回以内 －	400ℓ	1．黒星病の初発時期なのでこの回以降10日間以上防除間隔をあけない。 2．この回以降6月上旬までは、さび果や生理落花などが発生しやすいので各種乳剤は使用しない。 3．品質向上のためバイカルティを加用する。 4．薬害防止のため、高温時の散布は避ける。	／		
前回散布後 10日以内	黒星病、褐斑病、斑点落葉病 ハマキムシ類 キンモンホソガ （アプラムシ類）	1．デランフロアブル 2．フェニックスフロアブル 3．（バイカルティ）※2	2,000倍(50cc) 4,000倍(25cc) 1,000倍(100g)	60日前まで 前日まで －	3回以内 2回以内 －	400ℓ	1．アプラムシ類の発生園ではウララDF2,000倍（14日前まで、2回以内）を加用する。	／		
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする										
前回散布後 10日以内	腐らん病、モニリア病 輪紋病、黒星病 褐斑病、黒点病 斑点落葉病、炭そ病 カメムシ類 アプラムシ類 キンモンホソガ リンゴワタムシ	1．トップジンM水和剤 2．ファンタジスタ顆粒水和剤 3．ダントツ水溶剤 4．（バイカルティ）※2	1,500倍(66.6g) 3,000倍(33.3g) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで 前日まで －	（散布は6回以内） 3回以内 3回以内 －	500ℓ	1．高温時や薬液が乾きにくい夕方などの散布ではサビが出やすくなるので、薬液が乾きやすい条件で散布する。 2．リンゴワタムシが発生している園ではていねいに散布する。	／		
	おうとうの隣接園では、以後おうとうの収穫が終わるまで展着剤を加用しない。									
6月上旬	モニリア病 黒星病 黒点病 斑点落葉病 うどんこ病 カイガラムシ類、アプラムシ類 リンゴワタムシ	1．ベランティーフロアブル 2．トレノックスフロアブル 3．トランスフォームフロアブル 4．（バイカルティ）※2	8,000倍(12.5cc) 500倍(200cc) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	14日前まで 30日前まで 前日まで —	3回以内 5回以内 3回以内 —	500ℓ	1．黒点病防除の重要な時期である。	／		
6月中旬	黒星病、褐斑病 炭そ病、腐らん病 斑点落葉病 輪紋病 シンクイムシ類、アプラムシ類 カイガラムシ類	1．ナリアWDG 2．バリアード顆粒水和剤 3．コルト顆粒水和剤 4．（バイカルティ）※2	2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 3,000倍(33.3g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで 前日まで －	3回以内 3回以内 3回以内 －	500ℓ	1．ナリアWDGは西洋なしのル レクチエの果実や、ぶどうピオーネの葉に薬害を生じることがあるので注意する。 2．コルト顆粒水和剤は西洋梨のルレクチェの果実に薬害を生じる事があるので注意する。	／		
6月下旬	斑点落葉病、黒星病 褐斑病、輪紋病 アプラムシ類 キンモンホソガ シンクイムシ類 ハダニ類	1．パレード15フロアブル 2．スカウトフロアブル※1 3．ダニオーテフロアブル	2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで 前日まで	2回以内 5回以内 1回	500ℓ	1．殺ダニ剤は3～4日前に草刈りをしてから使用する。 2．ダニ剤の効果を持続させるため、次回散布まで10日あける。 3．カイガラシの被害が発生している園地ではモベントフロアブル2,000倍（14日前、3回以内）を散布する。	／		
7月上旬	輪紋病 斑点落葉病 黒星病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 キンモンホソガ	1．オキシラン水和剤 2．ユニックス顆粒水和剤47 3．エクシレルSE 4．（バイカルティ）※2	700倍(142.8g) 1,000倍(100cc) 5,000倍(20cc) 1,000倍(100g)	14日前まで 14日前まで 前日まで －	4回以内 4回以内 3回以内 －	500ℓ	1．降雨の多い場合は散布間隔をあけない。 2．ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍（前日まで）を混用する。 3．降雨が続く場合には8月下旬までアビオン-E 2,000倍を加用してもよい。 4．ももへの飛散に注意する。	／		
7月中～下旬	黒星病 斑点落葉病、輪紋病 シンクイムシ類 アプラムシ類 キンモンホソガ カイガラムシ類 ナミハダニ、リンゴハダニ	1．オキシラン水和剤 2．オリオン水和剤40 3．マイトコーネフロアブル	700倍(142.8g) 1,000倍(100g) 1,000倍(100cc)	14日前まで 前日まで 前日まで	4回以内 2回以内 1回	500ℓ	1．前回の殺ダニ剤散布から1カ月以上間隔を開けない。 2．ハダニ類の発生がみられる園地ではアカリタッチ乳剤2,000倍（前日まで）を混用する。 3．キンモンホソガの発生がみられる園ではデミリン水和剤2,000倍（30日前まで、3回以内）を単用散布する。ただし、早生種では収穫前日数に注意する。 4．日焼け軽減のため、9月上中旬までサンバリア1,000倍を混用しても良い。	／		
状況 7月下旬	褐斑病 斑点落葉病	1．オンリーワンフロアブル	2,000倍(50cc)	7日前まで	3回以内		1．降雨が続く場合に散布する。	／		
状況 7月下旬	カメムシ類	1．スタークル顆粒水溶剤	2,000倍(50g)	前日まで	3回以内		1．カメムシの発生がみられる場合に散布する。	／		
8月上旬	輪紋病、すす点病 すす斑病 黒星病、褐斑病 斑点落葉病 炭そ病 カメムシ類、シンクイムシ類 キンモンホソガ、ハダニ類	1．ベルクート水和剤 2．オーソサイド水和剤80 3．アーデントフロアブル※1	1,000倍(100g) 800倍(125g) 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで 前日まで	3回以内 6回以内 3回以内	500ℓ	1．高温時や薬液が乾きにくい時間帯（極早朝、降雨後の翌朝、夕方など）の散布ではサビが出やすくなるので、薬液が乾きやすい条件で散布する。 2．ハダニ類が発生した場合はコロマイト乳剤1,000倍（前日まで、1回）を単用散布する。ももの登録は収穫7日前までなので、収穫期のももに飛散させない。	／		
8月中～下旬	輪紋病、すす点病 すす斑病 黒星病、褐斑病 斑点落葉病 炭そ病 アプラムシ類、シンクイムシ類	1．オーソサイド水和剤80 2．モスピラン顆粒水溶剤	800倍(125g) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	6回以内 3回以内	500ℓ	1．次回の散布間隔をあけすぎない。 2．ハダニ類が見られる園地では、アカリタッチ乳剤2,000倍（前日まで）を1週間間隔で2～3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布する。 3．カイガラムシの被害が発生している園地ではコルト顆粒水和剤3,000倍（前日、3回以内）を混用する。ルレクチエに薬害のおそれがあるので散布させない。	／		
9月上旬 （中・晩生種のみ）	斑点落葉病 黒星病、輪紋病 すす点病、褐斑病 すす斑病 キンモンホソガ シンクイムシ類 ハマキムシ類	1．ダイパワー水和剤 2．ロディー水和剤※1	1,000倍(100g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	500ℓ	1．例年すす点病のみられる園ではダイパワー水和剤に替えてツインバリアー水和剤1,000倍（前日まで、3回以内）を使用する。ただし、他樹種へ飛散させない。	／		
9月中旬～下旬 （晩生種のみ）	斑点落葉病 炭そ病 褐斑病 シンクイムシ類	1．ストライド顆粒水和剤 2．ヨーバルフロアブル	1,500倍(66.6g) 10,000倍(10cc)	開花から前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	500ℓ	1．晩生種のみ散布する。 2．薬害防止のため高温時（25度以上）の散布をさける。 3．西洋なし以外への飛散に注意する。	／		
状況 10月上旬	斑点落葉病 炭そ病 褐斑病 カメムシ類 シンクイムシ類	1．ストライド顆粒水和剤 2．スタークル顆粒水溶剤	1,500倍(66.6g) 2,000倍(50g)	開花から前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	1．温暖で生育した場合に散布する。 2．薬害防止のため高温時（25度以上）の散布をさける。	／		
収穫後 （落葉期前まで）	腐らん病	1．アビオン－E（展着剤） 2．トップジンM水和剤 又は 石灰硫黄合剤	2,000倍(50cc) 1,000倍(100g) 10倍(10ℓ)	－ 前日まで 休眠期	－ 6回以内 －	400ℓ	1．腐らん病防除のため必ず散布する。 2．アビオン-E等の固着性展着剤を加用すると流亡防止効果がある。	／		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。　オーソサイド水和剤、オキシラン水和剤などキャプタン剤の使用基準は合計で6回以内である。　速度を上げて散布量を減らすことは絶対にしない。薬液が十分にかかる様に、剪定や間伐で通風採光を良くする。散布時期は生態に合せる。中山間地は平地より数日遅れる。

※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。　※2 バイカルティは、日持ちの向上が期待できる。